



— 第70号 —

〒214-8565
川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学教育学科の会
電話 044 (952) 6870 (代)
FAX 044 (952) 6889
ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

第五十六回「大会」のお知らせ

日 時 平成二十九年五月二十七日(土)
十二時三十分～十五時三十分

会 場 日本女子大学人間社会学部
A棟二階第一会議室(西生田キャンパス)

大会日程

第一部 総会 (十二時三十分～十三時)

- ・会長挨拶
- ・平成二十八年度事業報告及び各部報告
- ・平成二十八年度会計決算報告・監事報告
- ・役員改選・承認
- ・平成二十九年度事業計画・予算審議
- ・その他

第二部 第二十一回「学縁のつどい」
(十三時～十五時三十分)

申し込み

準備の都合上、なるべく同封のはがきで
五月十二日(金)までにお申し込みください。
(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

※卒業生の方は、西生田キャンパス入構・スクールバス
乗車に身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参
ください。

会長 吉崎 静夫

「教育学科の会第五十六回大会」のお誘い

今年も、お一人でも多くの卒業生と在校生の皆様のご参加を願って大会のご案内をいたします。

大会は、第一部「総会」と第二部「学縁のつどい」で構成されています。総会は、前年度の成果と課題を共有し、本年度の活動方針を決定する重要な機会です。学科の会は、昨年度からの基本方針を引き継いで、学生委員が積極的に企画・運営する「卒業生に話を伺う会」を実現しました。本年一月に、四十名を超える在校生が大手ICTメーカーの人事部に勤務する先輩の職場を訪問して、貴重な体験談を伺いました。企業で働くことの喜びと苦勞を知る好機となりました。このような企画は、今後も続けていきたいものです。

学縁の集いは、今回が二十一回目となります。毎回、参加者から好評を博しています。昨年度のつどいでは、幼稚園、小学校、企業とそれぞれの職場でご活躍されている社会人三年目の先輩方から、就職に向けての留意点、進路選択の決め手、学生時代の過ごし方などのお話を伺いました。その後、講演者を中心としたグループごとに話し合いをもちました。参加した在校生はもちろんのこと、卒業生にとっても有意義なひと時だったようです。

近年、卒業生と在校生を結びつけるネットワークが確かなものとなりつつあります。本当に喜ばしいことです。皆様のご参加をお待ちしています。

提言

「少子化対策」という錦の御旗

教育学科准教授 齋藤 慶子

今、私の目の前に二月号の女性雑誌が三冊ある。アラサー女性を
読者対象とした『Oggi』(小学館)、『CLASSY』(光文社)、そ
して『美人百花』(角川春樹事務所)である。目次を開くと、三
誌こそで、マッチングアプリ婚活などの特集を組み、婚活体験記
や注意点を紹介している。合計特殊出生率は多少持ち直しつつある
が少子化対策は急務であり、かつ諸外国と比較すると婚外子の割合
が極めて少ない日本では、三十歳前後の女性たちに「出産のリミッ
ト前に結婚を！」と、新年早々、女性誌で口を揃えて叫ぶ必要が
あるのかもしれない。

実際、『CLASSY』に掲載された「女の人生には3つの締め切り
がある」という記事には、「結婚相手への譲れない条件を一度見直し」
て現実的に「自分を見合う」結婚を考える「締め切り」は三十歳、
三十代前半で産む決断をし三十三歳を「締め切り」として不妊治
療へ、そして四十三歳を「締め切り」として約一千万円の貯蓄かマ
ンション購入をと、残された時間から逆算した「生きる道」が記さ
れている。たしかに「出産」に関する年齢的リミットはあるが、「働
き方改革」やワーク・ライフ・バランスが連日のようにメディアでも
取り上げられ、多様な生き方、働き方が選択できる社会が目指さ
れているなかで、こうした「生きる道」を示す記事には、男女共同
参画社会の理念への逆行を感じるとともに、今からちょうど百年前
の小学校女性教員たちの仕事と家庭の両立に関する議論が思い起
こされた。

一九一七年十月、第一回全国小学校女教員会議が開催され、産
休期間や具体的な両立支援策とともに、小学校教育における女性
教員の存在意義が議論された。良妻賢母を基底とする戦前の世の
中では、女性教員が「母性」以外に存在価値を見出すことは、実
質的には困難であった。にもかかわらず、女性教員たちの多くが、
男性と同等の「専門性」とそれに伴う地位向上を声高に叫び、対
処療法的な両立支援策を糾弾していた姿は、まさに現代の男女共
同参画の理念に適合したものである。百年前の女性教員たちが、現代
の女性雑誌を見たとき、少子化対策を錦の御旗として結婚至上主
義を全面的に押し出す記事に、何と感ずるのだろうか。

これまで女性雑誌への強烈な違和感を論じてきたが、「締め切り」
に間に合っていないアラフォー世代の自分を顧みて、また二つ下の世
代に何となく踏み台にされている気持ちとして、研究者ではなく一
個人としては、すこし心がヒリッとしている。でも、こうした痛みを
感じるところに、一直線には進みにくい男女共同参画社会の実現の
難しさがあるのかもしれない。

ホームカミングデイ・講演会 「唐澤富太郎と博物館」

日女祭第一日目の十月十五日(土)、教育学科の卒業生であり、唐澤富太郎の三女である唐澤るり子氏による「唐澤富太郎と博物館」の講演会が西生田キャンパスで行われました。教育学科の在學生、卒業生および教員等、多数の方が参加し、唐澤富太郎という人物とその教育理念、そして唐澤博物館について多くのことを学びました。講演内容について、3つの点から報告します。



まず、唐澤富太郎の研究についてである。唐澤富太郎は、日本の教育学者で日本教育史を専門とする研究者である。幼い頃から知的好奇心が強く、気になる事があれば分かるまで周りの大人に聞くような子どもだった。十四歳で上京し、豊島師範学校から東京高等師範学校、東京文理科大学へと進む。教育の研究に没頭した唐澤富太郎は、ドイツ教育哲学を学び、特にカント哲学の研究に打ち込んだ。現在も、唐澤博物館の三階の外

壁には「人間は教育によつてのみ人間となる」というカントの教えが掲げられている。また、奈良女子高等師範学校の教授であった戦時中には、仏教哲学を研究し、そこで学んだ仏教観は研究対象としてだけでなく、生き方にも大きな影響を与えた。たとえば、仕事場に筆で書いた「一日不作一日不食」(一日するべきことができないければ食事も断つ)という言葉葉を掲げて、研究に熱を注いでいた。さらに、唐澤富太郎は日本教育史を研究する中で、従来の学校中心の歴史だけでなく、家庭や村落における生活そのものを通して行われる教育形態の歴史に目を向けるべきであるという「生活教育史」を提案した。当時、教育をする側である教師ばかりが教育史研究の対象とされ、受ける側の子どもたちが抜け落ちていたところに目を向け、子どもが使うおもちゃやノートなど、普段の生活が教育に与える影響について深く考えたのである。

次に、唐澤博物館についてである。平成五年に創立された唐澤博物館では、唐澤富太郎が長い年月をかけて収集した日本の子どもの遊びや生活、そして教育に纏わる約七〇〇〇点の展示品を見学することができる。一階には近代小学校に関する教科書や教材・教具などの展示物が、二階にはままごと道具やめんこといった子どものおもちゃの展示が、三階には日本人の暮らしをテーマとして、足袋や下駄、いづめなど生活で利用していたものが展示されている。

唐澤富太郎は、そもそも、なぜ物を集めたのか? 高度経済成長によつて、日本の古い物たちがどんどん捨てられていくという光景を目の当たりにした唐澤富太郎は、「失われてからではおそい」と思っていた物を集め始めた。物を集めるにあたり、通常では手に入らない墨塗り教科書を、わざわざ廃品回収に赴いて収集し

たり、新校舎の建て替えによつて必要なくなつた階段を貨車で運んだりといったエピソードはとても興味深かった。

三つ目は、唐澤富太郎の人となりについてである。骨の髄まで研究・学問に対する情熱で溢れ、やりかけたことは必ずやり遂げるという唐澤富太郎を、るり子氏の母である富太郎の妻が全力でサポートした。また、娘からみた唐澤富太郎は、毎日研究に没頭し、一度仕事に取り掛かったら鬼のような集中力で終わらせるという印象で、家ではあまり騒げず「黙って喋れ」と良く言われたそうである。さらに、唐澤富太郎は、教員たちに次のような言葉を残した。「教育の要諦は『薫陶』である」。つまり、自分が研究に取り組む姿を学生たちに見せることが本当の教育であるということだ。唐澤富太郎のこうした姿は多くの教員たちに影響を与えたということである。

以下、講演会に出席した学生の感想をいくつか記します。

今回の講演会に出席してみて、唐澤富太郎の行動力の大きさに驚いた。全国から教科書やおもちゃなどの資料を集めるのは、体力的にも経済的にも負担は大きかったはずである。しかし、結果として、現在の私たちの学びにもとても大きな教育的意義を持つ唐澤博物館が残された。私も何か気になることには時間を割いて、答えを得ようとする行動力を身につけたいと思う。

唐澤富太郎は、教育のことについて、研究について常に考え行動をすすめる方でした。物には先祖の知恵と心がこもっている「物心一如」という

言葉大切にされていきました。物を受け継ぎ、その時代ならではのつかみ、知ることはこれから先に新しい物をつくる私たちにとって必要な行為だと思えます。

今回の講演を聞いて、初めて知る博物館の展示物にとっても興味を感じた。また、唐澤富太郎は、本当に研究が大好きで熱心に取り組んでいた様子が見えたと感じていた。自分の研究を楽しんでやっていたからこそ、長くそして密に続けられたのだと思う。私が通っている大学に、こんなにも一生懸命教育や生活について考え、研究した先生がいたということを知ることができて、とても良かったと思う。

なお、今回の報告書は、文献研究基礎演習Bを受講している1年生の報告書を授業担当者(齋藤)が編集しました。



懇話会 本井康博氏を迎えて 『私学教育のパイオニア』 『あさが来た』&『八重の桜』の世界

二〇一六年十一月五日(土) 目白キャンパスに、元同志社大学神学部教授で新島襄の研究に造詣が深く、ご活躍中の本井康博氏をお迎えして懇話会を行いました。時折関西弁を交え、歯切れ良い、ユーモア溢れる本井氏の語り口に引き込まれ、あつという間の二時間でした。三十三名が参加され、六人の私学教育のパイオニアの活躍に、皆様の興味関心が溢れたようでした。講演後にも意見やご質問の交流があり、充実したひとときでした。一部抜粋してお伝えします。



* 一つのNHKドラマの登場人物

今年の四月に終わった「あさが来た」の放映で日本女子大、とくに成瀬記念館は大変だったでしょうね。桜楓会の方も並ばないと入れなかったと聞いています。新島襄、八重夫妻が住んだ住宅(新島旧邸)が、今も京都の御苑近くに残っていますが、「八重の桜」の放映でたくさんの方が見学者が訪れました。その結果、傷みが生じたので、今では外からしか見学できなくなりました。

さて、「あさが来た」は成瀬仁蔵、広岡浅子、土倉庄三郎、「八重の桜」では山本覚馬、山本八重、新島襄が活躍しました。今日はこの六人を中心にお話します。

まずは、成瀬仁蔵。言うまでもなく長州吉敷の出身です。長州の人はクリスチャンにならなくても、明治維新後には出世コースが用意されていました。成瀬はそういう道を進みませんでした。広岡浅子は京都の三井家のお嬢様で、大阪に嫁いで実業家になりました。成瀬の支援者でもありましたね。

土倉庄三郎は、奈良出身の資産家で、「大和の山林王」と呼ばれました。浅子とともに成瀬を資金的にも精神的にも助けてきました。そのおかげで日本女子大学ができたようなものです。

* 山本覚馬と新島襄

新島八重の兄、山本覚馬は、会津若松の出身で、会津藩士です。これまであまり知られていない人物ですから、略歴を紹介します。覚馬は会津で鉄砲を教えていましたが、仕えていた殿様・松平容保が幕末に貧乏くじを引くような京都守護職になりましたので、京都に上らざるをえませんでした。案の定、戊辰戦争で長州・薩摩に敗れてしまいます。会津藩士は戊辰戦争の後、負け組となったために、薩長などの勝ち組からは冷遇されるのが普通ですが、覚馬は勝ち組のリーダー西郷隆盛などから「敵ながらあつぱれ」と認められます。で、覚馬は京都府顧問(知事のいわば特別補佐官)になりました。その彼が、京都に同志社を作ったと、帰国したばかりの新島襄に働きかけます。向こうから誘ってくれたのです。キリスト教の抵抗勢力が最大の街、京都でキリスト教の学校が創れるなんて、それまでの新島は考えたこともありませんでした。

たまたま京都で知りあつた覚馬が土地(校地)を提供してくれたのです。覚馬は戊辰戦争のあと、なぜか旧敵の薩摩藩邸を取得していました。その土地です。同志社ができたのは覚馬のおかげです。さらに覚馬は、新島に自分の妹、八重を嫁として、結婚に至らせています。

* 時代背景の表にしてみると

さて、今日の主役たる六人を知るために、生没年を黒板に列挙してみます。上から生まれた順に並べます。

まず覚馬。一八二八年、会津生まれ。後半は京都に行き、一八九二年に亡くなっています。京都では身体が不自由になり、十分な働きが出来なくて残念だったことでしょう。次は土倉です。一八四〇年、奈良で生まれ、一九一七年に奈良で亡くなります。覚馬よりも長生きしています。三番目が新島襄です。一八四三年に生まれ、一八九〇年に亡くなりました。彼は小さいころから体が弱く、四十六才で亡くなりました。彼の生涯は三つに分かれます。二十一歳までは江戸、真ん中の十年は留学生として欧米で暮らします。最後の十五年は京都に同志社を立てて、教育者、宗教者として活躍します。四人目の八重は、新島とは二つ違いです。一八四五年に生まれ、一九三二年に八十六才で亡くなりますから長生きでした。一方、浅子は八重とは五才違います。一八四九年に生まれ、一九一九年に亡くなりました。最後が成瀬です。六人中、一番若いです。一八五八年から一九一九年までの生涯でした。亡くなった年は奇しくも浅子と同じです。浅子が一月、成瀬が三月でした。以上の六人に共通するのは、全員が幕末に生まれた点です。さらに、この表で大事なのは一八六八年の明治維新です。京都の時代から東京の時代へと、時代が大きく変わる転換点を全員が体験していま

す。ほかにも六人の働きに共通するものがあるとすると、教育です。今日のテーマは私学教育、特に女子教育に焦点を当てます。

皆さんに一番馴染みのない覚馬も、実は女子教育のパイオニアなのです。一八七二年に京都に府立女学校を創りました。日本の女学校では最初だと言われています。女学校は女紅場(にようこうば)と呼ばれました。女子教員皆無の時代でしたから、覚馬は八重に教員として働くよう勧めました。八重の学歴はなかったのですが、養蚕や礼儀を教え、さらには寮生の生活指導などもしました。だから、八重も京都の女子教育のパイオニアです。女紅場のあと、新島は一八七七年に同志社女学校を創ります。ここでも八重は教えました。それにしても、新島が男子校(一八七五年)の直後に女子校を創ったのは凄いことです。福沢諭吉ですら、女子教育は頭にありませんでした。むしろ「女性に英語を教えてどうするのだ」と批判的でした。それに対して新島は、男子と同じ教育を女子にも、ということで女学校を立ち上げました。裁縫や料理を教えるためではなく、男子と同じ科目を教える普通学校を目指した点が、先駆的です。

ちなみに日本女子大学ができたのはそれより二十余年後の一九〇一年。日本で初めての大規模な組織的な女子大です。最初から大学として始まったのはここだけです。先の表を見ればお分かりのように、日本で近代的な女学校が始まったのは十九世紀(明治の初め)、ならびに世紀が変わる一九〇〇年前後のことです。二つの山があります。そのいずれの時期にも、今日の六人がそれぞれ大事な働きをしています。たとえば、一九〇〇年前後、成瀬と浅子が知り合います。土倉と一緒日本女子大創りを始めます。

その結果、一九〇一年に女子大が発足しました。二つ目の山ですね。新島夫妻や覚馬が、ひとつ目の時代(中等教育)の開拓者だとすると、土倉、成瀬、浅子は、日本女子高等教育の曙の時代にパイオニアとして活躍するのです。

* 一人の実業家

土倉庄三郎は、「あさが来た」でもあまり出番はありませんでした。ドラマで有名になる前は「どくら」と言われることが普通でした。大和の山林をいくつも持っている大地主です。浅子を成瀬に紹介したのは土倉ですから、女子大にとっては大恩人です。成瀬に協力をし、浅子同様に五千円を寄付しました。成瀬と土倉のつながりはかなり早く、成瀬が大阪の時代に始まっています。成瀬は牧師でもあり、大阪の梅花女学校(キリスト教主義です)の実質、校長をしていました。梅花ができる土倉は娘たちを入学させ、寄宿舎に預けました。寄付もしました。仏教徒なのに、なぜ成瀬の学校に娘たちを入れたのかは謎ですが、一つはクリスチャンスクールが精神教育(こころの教育)を大事にしているという共感があつたようです。精神を鍛えてくれる、魂を養ってくれる、という期待から子どもを入れたのでしょうか。ところがこのあと、新島と接触し、息子たちを同志社(男子校)に入れたのを契機に、娘たちも梅花から引き揚げ、同志社女学校に転校させます。このように、土倉は日本女子大学校だけでなく同志社ともつながりがあり、多額の寄付もしました。今年の六月に土倉の没後百年記念シンポジウムが奈良県吉野郡川上村でありました。日本女子大の関係者も三人、見えていました。もう一人の支援者は広岡浅子で、大阪で広岡信五郎と結婚し、夫の代わりにキャリアウーマン、実業家となって力を発揮

します。浅子は、前半生は教育にはほとんどタッチしていませんでしたが、成瀬が一八九九年に書いた『女子教育』を読んだで驚愕します。三回読んで、三回とも泣いたそうです。女子に教育は不要と信じられていた時代に、こんなことを考える男性がいるのだと浅子は感激しました。両親始めいろいろな人から女に教育なんか要らないと言われ、実に残念な気持ちで少女時代を過ごした浅子は、実業家になつてからも、なんとかそれを取り戻したいと思っていました。そこで、五千円を寄付して成瀬に協力しました。実家の三井家も土地(校地)を寄付しました。開校後には、軽井沢の別荘も贈られました。

* 一人は牧師・教育家

新島と成瀬は、いずれも牧師であり、教育家でもあります。教派も同じプロテスタント(会衆派、日本では組合教会)でした。新島は終始、京都を拠点にしましたが、成瀬は大阪、東京だけではなく新潟でも女学校を手掛けました。新潟女学校です。新潟では牧師をしながら校長も務めていましたが、次第に軸足が教会から女学校に移ります。新潟教会から初代牧師と呼ばれたのに牧師を辞めます。このころから成瀬のライフワークがはつきりとしてきます。自分は牧師ではなく、女子教育者として立つのだと。その後、アメリカに留学して女子教育を勉強し、女子大を視察します。帰国してからの女子大学校設立の準備をしました。その成果が、日本女子大学校です。その意味では、成瀬にとつては新潟時代が一つの転機となりました。牧師から女子教育者への変身です。二〇〇二年に私は同志社の学内で「同志社と日本女子大」というタイトルで企画展をしました。成瀬記念館から大事な資料、特に新島と成瀬の交流を示すものをお借りして展示しました。

創業者同士の交流だけでなく、新島の時代からちよつと遅れますが、日本女子大学校開校後に同志社女学校から十人ほどの助っ人が目白に引き抜かれまし。このように両校は歴史的に深いつながりがありますから、現在も学生交換制度で交流を継続しています。

* 二人のヒロイン

八重と浅子に移ります。差別用語、だと言われるかもしれませんが、二人は「女だたらに」活躍し、男のような生き方をしました。二人ともおてんばだった、と自分で言っています。特に八重は戊辰戦争では鉄砲で人を撃っていたのですから、相当なおてんばです。「戦争上がりのおてんば娘」と年を取ってから回想しています。おばあちゃんになつても昔のおてんば気質が残っていますね。二人の共通点は、ほかにあります。少女時代に男女差別をされたこと、例えば勉強、茶道です。八重は表千家、三井は裏千家で、二人とも茶道に打ち込みました。女はお茶をしてはいけぬ、茶室に入つてはいけぬ時代には八重は「女だたらに」茶道を始めます。修行の結果、師匠格になつた八重は今度は女性の弟子を取り、女性のファンをどんどん増やしました。これは、鶴ヶ城での会津戦争のとき、最新のスペンサー銃で「女だたらに」戦う姿とまさに重なり合います。一方、浅子も筑豊の炭田を経営することになつた際、社長として筑豊炭田に乗り込んで、荒くれの工夫たちと一緒に生活しました。あぶないからピストルを持って行きました。実際には使わなかつたと思いますが、周りの人は浅子を狂人扱いしたそうです。それでも自分の信念を貫きました。看護の世

界でも八重はパイオニアです。戊辰戦争中、看護の体験をしています。その後、日清戦争でも日露戦争でも、若い看護師たちを引率して広島や大阪に出向き、傷病兵の看護や介抱をしました。そういう意味では、浅子も八重もキャリア・ウーマンのパイオニアです。特に女子教育を進めることにふたりは活躍しました。日本女子大学校四代目の校長、井上秀は京都の生まれです。京都府の第一高等女学校に入り、浅子の長女、亀子と同級になります。運命のめぐり合いです。卒業後、秀は広岡家に寄宿し、実の娘以上に浅子にかわいがられました。その後、日本女子大学校に一期生として入学。卒業後は同窓会を立ち上げて、初代の幹事長になります。ところで、秀や亀子の通つた府立女学校は覚馬や八重が創つた女学校(女紅場)の後身です。八重と浅子は見えないところにつながっていますね。鴨川の河畔にあつた女紅場の跡地には、「本邦最初の女子高等女学校の始まり」といった意味の文言を刻んだ石碑が立っています。が、本当は日本女子大学校が女子高等女学校の始まりですよ。山本覚馬は京都の女学校を創つたばかりか、新島と共に同志社の発起人にもなりました。彼がいなければ同志社は京都にはできておりません。京都府の顧問、すなわち知事の補佐官として、京都府の認可を取るために尽力したからです。知事は覚馬のことを先生と呼んでいたそうです。同志社という名前も覚馬がつけました。新島は十年も海外におりましたが、帰国直後はほぼ無名、とりわけ京都ではそうです。むしろ、「覚馬の義弟」と名乗つた方が京都では受け入れられやすかつたはず。この覚馬を始めとする人々が、女子教育を始められたことが、今の教育につながっていることをみなさんに知っていただきたいと思ひます。

* アンケートより

・細かい部分のお話をとても面白く伺い

ました。土倉庄三郎に関して少し学びたいと思いました。とても興味を持ちました。入学後に入りました寮監が土倉千代先生。千代先生の大叔父様が庄三郎氏だったようです。(庄三郎氏の弟の平三郎の孫のようです)裏千家のお茶の先生でした。ありがとうございます。

どちらも、ドラマを見たり本を読んだりしましたが、先生からのお話を伺い、より興味深く感じることができました。ありがとうございます。お話が大変楽しく、わかりやすいのがよかったです。同志社と女子大の深い交流があったこと、初めて知りました。

時系列によるご説明がわかりやすく、近代の教育の黎明期に大きな役割を果たした六人の方々の役割がよくわかりました。私学Ⅱ志学、こころの教育、心育というお話が心に残りました。ありがとうございます。

江戸から明治、昭和の時代を駆け抜ける私学(志学)の創立に至る六人の志士の方々の生き様をお聞きでき、とても興味深く思いました。同志社と日本女子大のつながりや、女子大の歴史を知ることができ、本当に卒業生として関心深く伺え、ありがたかったです。

本日は充実した興味あるお話をありがとうございました。八重さん、浅子さんの二つの点が大きな時代の流れ、関わる人々と線となつてつながっていききました。今回のご講演を拝聴し、いろいろなことをもっと勉強していきたいと思えました。ありがとうございます。

長州出身の成瀬先生が私学に求めていたものは何か、学ぶことができました。また、会津の風土が育てた志が現在に息づいていること、嬉しく思いました。

【文化部 24 回生 赤塚国子】

学ぼうシリーズ



外国人児童生徒等教育の現状と課題

現況と課題

国士館大学政経学部准教授 小池 亜子
(44 回生、旧姓田中)

私は人間社会学部創設年に教育学科入学、西生田・目白キャンパスを往復して日本語教育講座を履修しました。大学院人間社会研究科博士課程前期修了後、日本語学校講師や大学非常勤講師を経て、現在、国士館大学で外国人留学生対象の日本語科目を担当しています。昨年10月から半年間、職場の研修制度を利用して再び母校で学ぶ機会に恵まれ、恩師の吉崎静夫教授に学生当時と変わらぬ温かいご指導をいただきました。今回は、私の研究テーマである外国人児童生徒等教育について概要を述べたいと思います。

外国人児童生徒等が増加した背景

平成28年6月末現在、日本の在留外国人数は230万7388人、総人口に占める割合は約1.8%です(法務省)。前年末比で7万5199人増、人数は過去最高となりました。外国人住民の割合が高い「集住」地域もあれば、「散在」地域もあります。47都道府県全てで前年末の人数を上回っています。半世紀以上前、昭和35年の外国人数は約65万人、約0.7%でした。外国人の9割が朝鮮半島出身者だった時代です。その後、平成2年に出入国管理及び難民認定法(入管法)の改正が施行され、それまで日系人1世2世に対して日本人としての身分に基づき与えられていた在留資格が原則として3世まで与えられるようになりま

した。日本での就労制限がなくなつたため、ブラジルやペルーなどからの日系南米人が急増し、外国人数は平成2年末には100万人を超えました。さらに、中国やフィリピンから来日した人々をはじめ、在留期間が長くなり永住権を得る人も増えていきます。近年は、政治経済の状況を背景にベトナムやネパールからの留学生など東南・南アジア諸国からの人々が増加し、在留外国人の出身国・地域の多様化が一層進んでいます。滞日する外国人が増えてくると、家族として同伴される子供の数も年々増加し、日本の公立学校でも多くの子供たちが学ぶようになりました。

「日本語指導が必要な児童生徒」の状況

文部科学省は、先に述べた入管法改正の影響により日系人を含む外国人が増加し、外国人児童生徒も急増したことを契機に、平成3年度から公立小・中・高等学校等における「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」を行っています。「日本語指導が必要な児童生徒」とは、日本語での日常生活が十分にできなかつたり、日常会話ができても、学級での学習活動への参加に支障が生じている児童生徒のことです。平成26年5月1日現在、公立学校に在籍する外国人児童生徒数は7万3289人で、このうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒数は2万9198人、約4割に上ります。ここで外国人とは「外国籍」をもつ人を指しますが、実は、「日本語指導が必要な児童生徒」のなかで、「日本国籍」をもつ子供が急増しています。海外からの帰国児童生徒のほか、重国籍の場合や、保護者の国際結婚により家庭内言語が日本語以外の場合などです。「日本国籍」の日本語指導が必要な児童生徒数は7897人で、外国人児童生徒数と合

わせると3万7095人、「日本語指導が必要な児童生徒」の数はこの10年間で1.6倍に増加しました。母語別の割合で見ると、ブラジルの公用語であるポルトガル語を母語とする者が28.6%で最も多く、次いで、中国語、フィリピン語、スペイン語の順に4言語で全体の約8割を占めています(図)。日本国籍の児童生徒では、フィリピン語を使用する者が28.5%と最も多く、次いで、日本語、中国語、英語の順に4言語で全体の78.7%を占めています。

在留外国人の定住化が進むにつれ、日本生まれ日本育ちの子供が増える一方、学齢期の途中で来日したり、先に滞日している保護者が母国から子供を呼び寄せる場合など、国籍や母語のみならず、来日や就学の時期なども多様化しています。その結果、文化的背景、母語や日本語の習得状況、教科の学習状況等がそれぞれ異なる、実に多様な子供たちが日本の公立学校で学ぶようになりました。現在、日本の全市区町村の約5割で「日本語指導が必要な児童生徒」が1名以上在籍しています。外国人集住地域では、全校児童の過半数が外国人児童という公立小学校もあります。このような子供たちの多様な状況を踏まえ、外国籍か日本国籍かにかかわらず教育のあり方を考えていく上で、「外国につながる児童生徒」や「外国人児童生徒」「等」教育などの表現が使われています。

外国人児童生徒等教育の施策

グローバル化に伴い、日本も移民の子供の教育に長年取り組んできた欧米諸国と同様の課題に直面したわけですが、日本は移民政策をとっていません。また、文部科学省は外国人児童生徒は日本国憲法第26条に定められた就学義務の対象とならないとしており、学齢期の外国人児

児童生徒の不就学という問題も少なからず生じています。しかしながら、日本も批准している「国際人権規約」や「子どもの権利条約」の規定等を踏まえ、義務教育諸学校への就学を希望すれば、授業料不徴収、教科書の無償給与など、日本人児童生徒と同様に教育を受ける権利が保障されています。不就学等の課題に対応するため、文部科学省は平成18年6月の通知「外国人児童生徒教育の充実について」で、各都道府県教育委員会に対して就学案内の発給等、義務教育を受ける機会を保障するよう求めています。

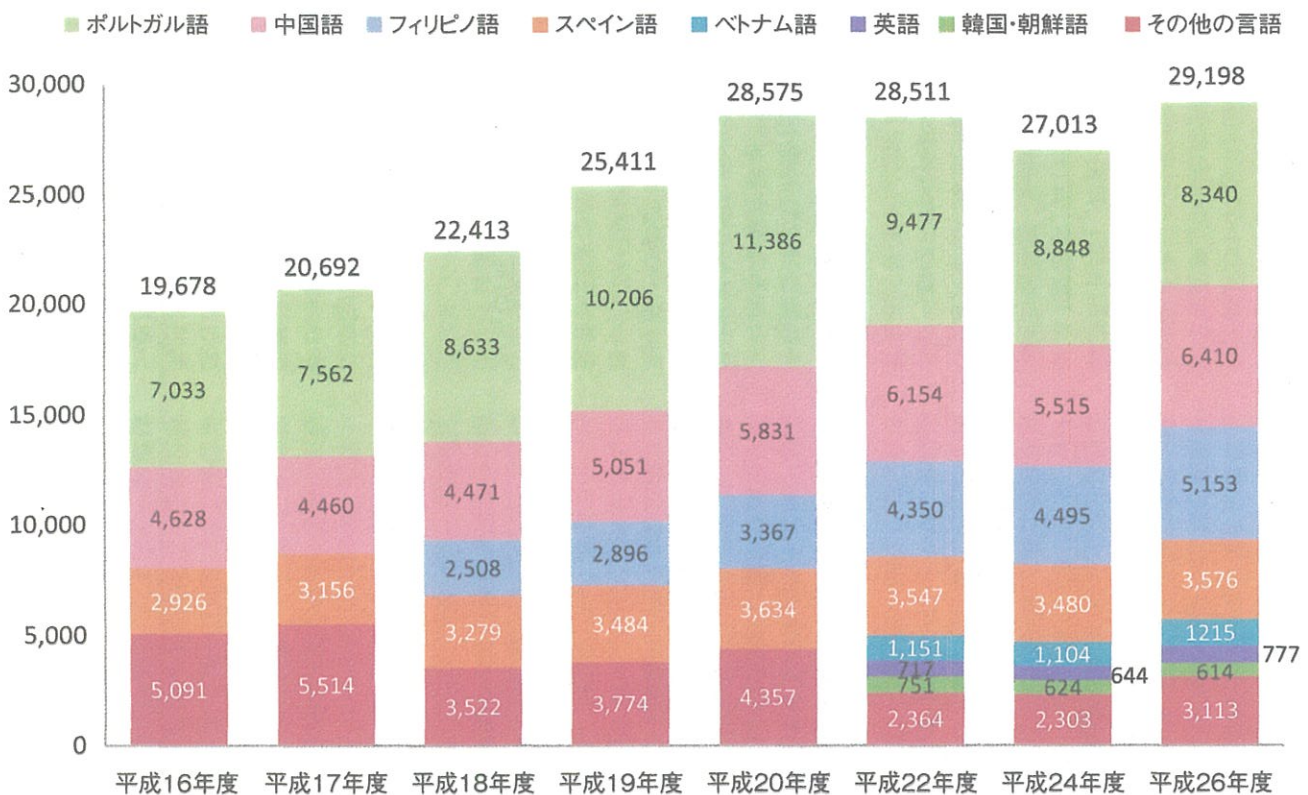
外国人児童生徒等教育の取り組みは、予算措置を含め、各都道府県教育委員会、各市区町村教育委員会の負担が大きい現状にあり、その内容も多様です。共通する主な施策としては、①日本語を指導する教室の設置、②担当教員の配置、③児童生徒の母語を話せる支援員の派遣などが挙げられます。①は、在籍学級での学習に参加することが難しい段階の児童生徒を必要に応じて「取り出し」、通級指導をする教室のことです。「日本語教室」「国際教室」「ワールドルーム」「オアシス」など地域や学校により様々な呼称があります。写真のように、10数か国の児童が学んでいる公立小学校もあります。②については、国が平成4年度から日本語指導等に対応した教員定数の特例加算により給与費等を国庫負担しており、加配(特配)教員が担当する場合もあります。③の、支援員の資格基準や給与も各教育委員会により様々です。在籍学級での学習に少しずつ参加できるようになった児童生徒に対しては、②や③の教員・支援員が在籍学級に「入り込み」、個別に支援します。在住する地域によって教育の質に著しい格差が生じることのないよう、体制整備や研修の一層の充実が望まれます。

国の施策としては、平成19年に「初等中等教育における外国人児童生徒教育の充実のための検討会」が設置され、平成23年3月に『外国人児童生徒受入れの手引き』が発行されています。平成24年には「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会」が設置され、これまで教育課程として制度化されていなかった日本語指導が、学校教育法施行規則の一部改正により、平成26年4月から「特別の教育課程」として位置づけられるようになりました。今後は、この制度に基づいて、どの地域でも組織的な教育体制を整えていくことが期待されます。平成27年からの「学校における外国人児童生徒等に対する教育支援に関する有識者会議」では、高校進学や就職の促進に向けた提言もなされています(平成28年6月報告)。

学校全体での取り組みに向けて

「日本語指導が必要な児童生徒」の判断基準は明示されているわけではなく、教員の見取りと校長の判断に任されています。文部科学省が平成26年3月に配付した「対話型アセスメント(略称DIA…Dialogic Language Assessment)」にて、児童生徒の母語力や母語で培った知識を活用しながら、教科学習に必要な日本語力と学力を伸ばしていく指導の重要性が強調されています。母語を習得してから外国語として日本語を学ぶ成人学習者とは違って、母語、社会性、情緒、認知の発達途上にある児童生徒の教育には、教員の高い専門的力がが必要です。現在、大学の教員養成課程で外国人児童生徒等教育に関する体系的なカリキュラムを設けているところはごく一部ですが、これからは、こうした児童生徒への教育方法を学ぶことが必須の時代になっていくでしょう。

(図) 日本語指導が必要な外国人児童生徒の母語別在籍状況



出典:「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成26年度)」の結果について(平成27年4月24日文部科学省報道発表添付資料)

外国人集住地域の小学校の日本語指導教室



文部科学省の平成26年度調査によれば、日本語指導担当教員と支援員を対象とする研修を行っている市区町村教育委員会には94(平成25年度中の実施)である一方、在籍学級担任や教科担当教員も含めた研修を実施したのは39と半数以下にとどまっています。

学習指導要領解説(総則編)にも記載されているように、教員自身が子供の出身国に関心をもち、子供たち同士の人間関係を好ましいものにするよう学級経営、学校経営に取り組み、ともに学ぶ経験を含めての子供たちにとっての財産とできるかどうか、担任や管理職の果たす役割はとても大きいといえます。

会員の広場

第14回日本女子大学

「平和の集い」

婦人国際平和自由連盟国際会長
秋林こずえ氏(42回生)を迎えて

25回生 高崎方子



12月3日(土)午後、附属豊明小学校を会場として、第14回「平和の集い」が開催されていた。2003年に日本女子大学関係者有志によって始められたこの会は、毎年、幼く大・院の生徒、学生を含み、教職員、卒業生、そして日本女子大学内に事務所を構える国連NPO婦人国際平和自由連盟(WILPF)日本支部会員と様々な部署からの参加がある。毎年バラエティに富んだ企画がなされるが、今年は、高校生平和大使に選ばれたジュネーブ国連本部訪問報告をした布川仁美さんに続き、WILPF国際会長秋林こずえ氏(写真右)が特別報告者となっていた。秋林氏は本学科42回生である。母校卒業後コロンビア大学で平和教育を学ばれ、現在は同志社大学教授として教壇に立つ一方、主に長年在沖繩米軍基地や朝鮮半島の平和などの平和運動にフェ

ミニズムの立場から取り組んでこられた実績が評価され、一昨年設立100周年を迎えたWILPF国際本部総会において、国際会長に選出された。平和構築のネットワーク作り让世界中を奔走する日々を送っている彼女だが、テロ、紛争、難民、核兵器等の諸問題で混迷を極める現状世界の中で平和の旗を掲げて勇ましく行動する現代のジャンヌ・ダルクも母校の庭に降り立てば、柔和な優しい表情を見せることを微笑ましく思えたひとときではあった。

私は卒業後、9年間豊明小学校に勤務後、退職して入間市に転居、2人の子どもの子育てをしながら、地域の子どもの学習補助と公民館活動で20数年を費やした。2001年、元の職場の上司の誘いがあり、桜楓会成瀬先生研究会の委員となり、学生時代には知ることのなかった創立者の研究にすっかり嵌まり込んだ。以来16年間、自分自身の心のルーツを求めて桜楓会に通い、この間多くの先輩の勧めでWILPFの会員となった。思えば私にとって、成瀬研は理念を学び、原点を確認する場、そしてWILPFは実践の場であろうか。一昨年、巡り合わせでオランダ・ハーグにおける国際本部100周年カンファレンスに参加する機会を得た。英語もままならない自分が国際会議に赴く意味があるのかと臆しつつ「皮膚呼吸で世界を感じてくる」を自分なりの目標として、思い切って参加した。現地での体験は感動の連続であり、心底参加できてよかったと思っているが、そうは言いつつもやはり語学はできるに越したことはない。語学力に応じた成果となることも痛感。一方、学生時代以来閉じていた英語の世界への扉が、いささか開いたのは一つの収穫であった。

さて、成瀬先生が1916年にWILPF事務局から受け取った日本女性の大会

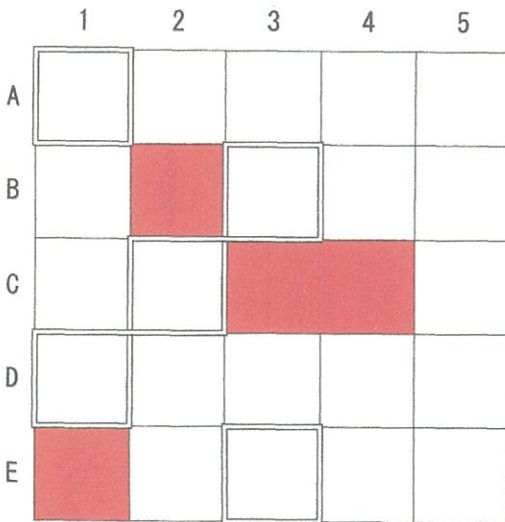


会参加への誘いの書簡に「今はまだ準備ができていない。いずれの日にか・・・」という返信をしたことは有名な話であるが、世界平和構築の担い手となる女性の育成を目指した先生はさぞかし残念だったことと思う。(その後1921年第3回国際総会には高良とみ等3名の日本女性に参加、日本支部の前身である婦人平和協会が誕生する。)

すると、一昨年ハーグで教育学科同窓の秋林氏が会長に選出されたことは、成瀬先生の100年の大計が実った歴史的出来事だったといえる。実に誇らしい。女性によってこそ可能となる平和へのアプローチを探り出し、強く、そしてしなやかに羽ばたいてほしいと期待している。もちろん我々も日本支部会員として、バックアップに努めていきたいと考えている。

クロスワードパズル

二重線枠の文字を組み合わせてできるひらがな5文字の言葉は？



〈たてのカギ〉

- 1-A 夜明け前の茜色の空。豊洲の隣り
- 2-C お昼のお楽しみ。___セットがお得
- 3-A 答えは81
- 3-D 1000kg または “豚”
- 4-A 国会で飛び交い、喜多さんとは旅仲間!?
- 4-D 萩じゃない
- 5-A 危機、崩壊のこと。産後___、老後___



締め切り
5/12(金)
必着

〈よこのカギ〉

- A-1 座れば牡丹。立てば？
- B-3 竜田揚げに大和煮・昭和給食の定番食材、今や希少
- C-1 腰が辛い___仕事、自由気ままな___猫
- D-1 確認はマジックミラー越しで安心
- E-2 モンゴル帝国初代皇帝

ヒント：別名「ブタノマンジュウ」鉢植えで鑑賞

- ◆ 解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者 10名に図書カードを贈呈します。(正解者多数の場合は抽選)
- ◆ 前回の正解は<ブンガク>でした
たくさんのご応募ありがとうございました。

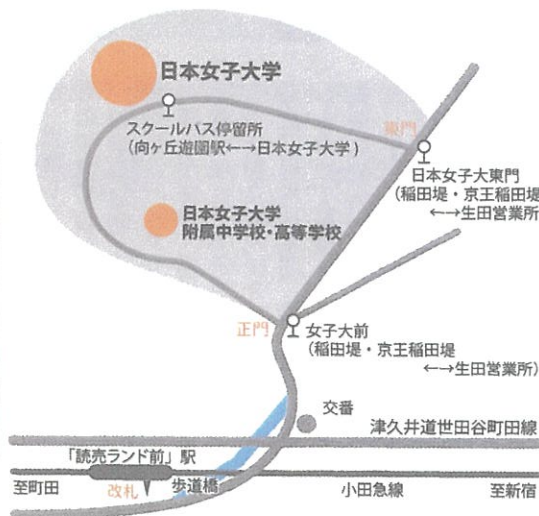
【当選者発表】(敬称略・数字は回生)

内田 泰子 (22) 中島 郁子 (25) 菊地 康子 (26) 増山 在子 (27)
黒沼 郁子 (28) 阿部 藤子 (35) 越川 香織 (44) 大石 恭子 (66)
青木 陽子 (院4) 志賀 智江 (院8)

◆ スクールバスダイヤ

2016年度の土曜日用です。
2017年度は変わる場合があります。
ホームページでご確認ください。

時	向ヶ丘遊園駅北口発	日本女子大学発
8	18 30 43	
9	07 20 50	25
10	10 22 42	05 20 50
11	15 40	20 40
12	00 15 45	07 30 40 57
13	00 15 40	20 40
14	00 30	10 40
15		15 30



交通のご案内

- ◆ 小田急線 読売ランド前駅下車
徒歩 15分
・新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)
・新宿から準急 30分
- ◆ 小田急線 向ヶ丘遊園駅下車
北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約15分・無料)
- 京王線 『京王稲田堤』駅下車 / 小田急バス(生田営業所行) 約12分 / 日本女子大東門または女子大前下車
- JR 南武線 『稲田堤』駅下車 / 小田急バス(生田営業所行) 約12分 / 日本女子大東門または女子大前下車

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

編集委員

- 高橋 藤枝 (23回生)
- 内山 睦美 (34回生)
- 斉藤 素子 (34回生)
- 佐藤 恭子 (34回生)
- 妙園 やよい (34回生)
- 星野 ひろみ (37回生)
- 石井 美奈子 (38回生・会報編集部長)



今年度の会費を納入して下さった皆様全員に教育学科の会特製クリアファイルを差し上げます！
これは「プロジェクト実践演習」の授業の一環として教育学科3年の松澤里奈さんと三橋袖季乃さんがデザインした教育学科の会マスコット「エデュちゃん」が描かれた貴重な品です。この機会にぜひ会費の納入にご協力ください。

お知らせ